〔古事記中應神〕品陀和氣命、坐輕島之明宮、治天下也、

〔日本書紀十一仁德〕元年正月、〔○中略〕都難波、是謂高津宮、〔○又見古事記〕

〔日本書紀十二履中〕二年十月、都於磐余、

〔古事記履中〕伊邪本和氣命、坐伊波禮之若櫻宮、治天下也、

〔日本書紀十二反正〕元年十月、都於河內丹比、是謂柴籬宮、〔○又見古事記〕

〔古事記允恭〕男淺津間若子宿禰命、坐遠飛鳥宮、治天下也、

〔日本書紀十三安康〕四十二年〔○允恭〕十二月壬午、穴穗皇子〔○安康〕卽天皇位、尊皇后曰皇太后、則遷都于石上、是謂穴穗宮、〔○又見古事記〕

〔日本書紀十四雄略〕三年〔○安康〕十一月甲子、天皇命有司、設壇於泊瀨朝倉、卽天皇位、遂定宮焉、

〔古事記雄略〕大長谷若建命、坐長谷朝倉宮、治天下也、

〔日本書紀十五清寧〕元年正月壬子、命有司、設壇場於磐余甕栗、陟天皇位、遂定宮焉、

〔古事記清寧〕白髮大倭根子命、坐伊波禮之甕栗宮、治天下也、

〔日本書紀十五顯宗〕五年〔○清寧〕正月、白髮天皇〔○清寧〕崩、是月、皇太子億計王與天皇讓位、久而不處、由是天皇姉飯豐青皇女、於忍海角刺宮、臨朝秉政、自稱忍海飯豐青尊、當世詞人歌曰、野麻登陛(ヤマトヘ)爾、瀰(ミ)我保(ガホ)指母能婆(シモノハ)、於尸農瀰(オシノミ)能、苫(コ)能拖(タカ)智紀(キ)儺(ナ)屢、都奴婆(ツヌサシ)之能瀰(ミ)野、

〔古事記清寧〕天皇崩後、無可治天下之王也、於是問日繼所知之王也、市邊忍齒別王之妹、忍海郎女、亦名飯豐王、坐葛城忍海(オシヌミ)之高木角刺(タカキツヌサシ)宮也、

〔古事記傳四十三〕此皇女の此宮に坐ことを云るは、此時天津日嗣所知看べき王を尋求むるに、すべて男王は在坐ずて、唯此女王一柱のみ世に存坐るよしにて、又殊に其宮をしも擧云ることは、此宮に坐々て、暫く天下所知看つる意を含めたる文なり、抑此時此姫尊を除奉りては、王